

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	12-044	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol, mortality and cardiovascular events in a 35 year follow-up of a nationwide representative cohort of 50,000 Swedish conscripts up to age 55. 国民を代表する 55 歳以下の 50000 人スウェーデン人徴収兵コホートにおける、35 年追跡によるアルコールと死亡および循環器疾患発症との関連の検討		
執筆者		
Romelsjö A, Allebeck P, Andréasson S, Leifman A.		
掲載誌 (番号又は発行年月日)		
Alcohol Alcohol. 2012;47:322-7.		
キーワード		
飲酒、死亡、循環器疾患、予防		
要 旨		
目的: 飲酒量増加と全死亡との関連、および適量の飲酒と冠動脈疾患死亡のリスク低下との関連が報告されている。この適量飲酒の予防効果について、動脈硬化の進展が若年者では乏しく、男性では 50 歳まででは認められない可能性がある。そこで我々は、若年および中年男性コホートを用いて飲酒パターンと死亡、循環器疾患との関連を検討し、また適量の飲酒が予防的効果を有するかどうかについても検討を行った。		
方法: 1969/70 年時点で 18-20 歳の国民を代表する 49,411 人スウェーデン人徴収兵コホートは、2004 年までの死亡、入院データと結合されている。Cox 比例ハザードモデルを用いて、飲酒量の死亡、循環器疾患発症に対するハザード比および寄与危険度割合を算出した。調整因子は社会的地位、知能、性格、喫煙とした。		
結果: 飲酒量の増加は死亡率の増加および心筋梗塞リスク減少と関連していた。死亡に対する調整後ハザード比は、エタノール 1 日摂取量 30g の群において、1.42 (95%信頼区間 1.10-1.82)であった。非致死性心筋梗塞のリスクはエタノール 1 日摂取量 60g の群において有意に低く (調整後ハザード比 0.37, 95%信頼区間 0.15-0.90)、一方、致死性心筋梗塞、全心筋梗塞とは有意な関連を認めなかった。徴兵時の飲酒と死亡およびアルコールに関連した入院との間には著名な関連を認めた。寄与危険度割合については、飲酒により 420 人の死亡、61 人の非致死性脳卒中が引き起こされ、一方で 154 人の非致死性心筋梗塞を予防していた。		
結論: 飲酒により非致死性心筋梗塞の予防よりもアルコールに関連した死亡の方がより多く引き起こされていた。厳格な健康管理の観点から、55 歳未満の男性における飲酒を支持する結果は確認できなかった。		